

博士課程教育リーディングプログラム 平成27年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	千葉大学	申請大学長名	徳久剛史
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	中谷晴昭
整理番号	003	プログラムコーディネーター名	中山俊憲
プログラム名	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

① プログラムの目的

免疫疾患の中でもアレルギー疾患は、国民の約30%が罹患しているにも関わらず、対症療法がほとんどで患者にとってもまた医療経済上の観点からも有効な根治療法が強く求められている。自己免疫疾患も根治療法の開発には至っていない。また、癌は老化に伴う免疫力の低下により発症頻度が増加し、高齢化社会の進行に伴い今や国民の3人に1人の死亡原因となっており、良好なQOLの得られる低侵襲治療法の開発が急務である。更に、高齢者に多い動脈硬化による心血管疾患も免疫が関与する慢性炎症性疾患として捉えられるようになった。これらの疾患には「免疫システムの調節異常によって発症する」という共通の病因論的特徴がある。そして、近年の免疫学研究の進歩は目を見張るものがあるが、未だその研究成果が有効な治療法の開発に結び付くケースは著しく少ない。その原因として、臨床医学の中で最先端の技術革新の成果を活かした検査機器や検査法の開発等で大きな成果を挙げている「診断学」という学問分野とは異なり、疾病の治療法を体系的に研究し実践する「治療学」という学問分野の研究が基礎医学と臨床医学の枠を超えてシステムティックに行われていないことや、「治療学」を推進する人材を組織的に育成する土壌がないことが挙げられる。

そこで、本学位プログラムでは、「治療学」を「疾患における治療の理論的背景を明らかにし、その知見に基づき新たな治療法を体系的に研究・実践する学問」と位置付け、千葉大学の強みを生かし、かつ社会的要請の非常に強い難治性の免疫関連疾患（アレルギー、自己免疫疾患、癌、心血管疾患等）に特化して、「免疫システムの調節」という視点からの治療薬の開発を含む「治療学」を推進するリーダーを養成する。具体的な人材養成の方策としては、医学と薬学が融合した大学院医学薬学府の博士課程に「治療学コース」を設置し、将来、ますます多様化する医療ニーズに指導者として対応でき、グローバル社会でリーダーとして活躍する医師・薬剤師、研究者や行政官の育成を行う。特に、①免疫学を中心とした知識習得とともに、免疫関連疾患の病因、治療法や治療技術を理解し、②医学と薬学の境界領域を含む幅広い知識と見識を有し、③患者の立場に立った個別治療の重要性を認識し、④「治療学」の概念を基盤にトランスレーショナルリサーチや臨床研究を統括指導する能力や、⑤卓越した英語力はもちろんのこと、リーダーとして必要な人間力（多角的視点、俯瞰力、総合的判断能力、統率力等）を兼ね備えた人材を育成する。

② 大学の改革構想

本学では、「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、世界を先導する大規模総合大学として、総合的で高度な個性ある教育プログラムと最善の環境を提供することにより、自由・自立の精神を堅持して、グローバルな視点から常に社会とかかわりあいを持ち、普遍的な教養(真善美)、専門的な知識・技術・技能及び高い問題解決能力をそなえた人材の育成、ならびに現代的課題に応える創造的、独創的研究の展開によって、人類の平和と福祉ならびに自然との共生に貢献することを目標としている。

特に、大学院教育においては、学術の理論及び応用を教授、研究してその深奥を究め、もって、文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とし、着実かつ積極的に改革を進めている。

2. プログラムの進捗状況

平成27年度は、4月入学13名の3期生が本プログラムの「治療学コース」に入り、「高い教養を涵養する特論」等の特論、治療学演習、治療学実習等、本プログラムで独自に整備した教育カリキュラムの履修を開始した。

また、プログラムの広報活動と平成28年4月に入学する4期生の選抜試験を行った。これらの内容を以下に記す。

1. 実施運営体制の構築状況

- 1) 第4回リーディング千葉統括会議(産・学・官のリーダーから構成される8名の委員)を平成28年3月1日に開催し、平成27年度の活動状況の報告等を行い助言・指導を受けた。
- 2) 平成27年度には2回(第11回、第12回)の運営会議を開催し、3年次からの研究指導體制や中間評価に向けての取組み等、重要な案件を審議した。
- 3) 7つの各種委員会(入試・教務委員会、産学官連携委員会、国際交流委員会、キャリアパス支援委員会、研究教育進捗評価・自己点検委員会、基礎・臨床統融合委員会、広報委員会)で通常業務を分担し、PDCAサイクルに則りプログラムを効率よく運営した。
- 4) 新規に学長主導による特別FDを開催し、プログラムの教育方針や今後の行程表、支援終了後の取組等に関し、教員間での共有を図った(平成27年12月1日、平成28年1月30-31日)。
- 5) 平成27年6月11日と17日に開催した国際外部評価委員会にて平成24-26年度の活動報告を行い、国際的な視点から今後の活動に関する助言・指導を受けた。

2. 構想・計画の進捗状況

- 1) 高い教養を涵養する特論14回(平成27年度は2期生による講師の選定、交渉、スケジュール調整)、創薬キャリアパス特論8回、治療学演習(ローテーション制で21ユニット)、治療学実習(理化学研究所でのサマープログラム共同開催、米国国立衛生研究所(NIH)短期研修、WHO/ドイツシャリテ医科大学での研修、ドイツベルリン免疫シンポジウム)等のプログラム独自の教育を行った。
- 2) プログラムの広報と情報発信のため、ホームページ(日・英)の運営、ニュースレターの発行(日・英)、広報用ポスター作成等を行った。
- 3) 本プログラムの各学生には、1-2年次は指導教授、異分野教授、プログラム若手特任教員による3名の担任教員、3-4年次は3名の指導教授を配置し、より総合的な指導を実施した。また、学生に主体的な研究立案力や研究遂行力を修得させるべく「千葉大学博士課程リーディング特別研究費(年額30万円)」制度を利用し、学生自身による研究プロポーザルを審査した上で特別研究費を支給し、研究活動を支援した。一方、「治療学コース」に所属する大学院生の経済的支援の観点から「千葉大学博士課程リーディング奨励金(月額20万円)」を支給し、学修研究に専念できる環境を整備した。
- 4) 休学中の1名を除く2期生全員の進級試験を年度末に行った。平成28年3月18日開催の第12回入試・教務委員会での審議の結果、14名全員が進級した。
- 5) 第4期生(平成28年4月入学)の学生選抜について：①入試・教務委員会による学生選抜要項の策定(平成27年7月9日)と治療学リーディングプログラム運営会議での報告(平成27年7月13日)、②学生募集を行い、15名の最終受験者を確認(平成28年3月15日)、③平成28年度選抜試験実施(筆記試験、英語での面接試験、グループ討論：平成28年3月17日)、④第12回運営会議(平成28年3月18日)にて8名の平成28年度合格者を決定した。